分野2 人にやさしく人がいきいき暮らすまち「ながの」(保健・福祉分野)

政策1	少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援	
	- 施策1 結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援	…施策番号 6
	一 施策2 子どもの成長を育む支援環境の充実	…施策番号 7
	施策3 社会的援助を必要とする家庭等の自立支援	…施策番号8
政策2	生きがいのある豊かな高齢社会の形成	
	一 施策1 高齢者の社会参加と生きがいづくりの促進	…施策番号 9
	- 施策2 地域包括ケアシステムの深化・推進	…施策番号 10
政策3	だれもが自分らしく暮らせる社会の形成	
	- 施策1 障害者(児)福祉の充実	…施策番号 11
	一 施策2 認め合い、支え合い、活かし合う地域社会の実現	…施策番号 12
	施策3 生活の安定と自立への支援	…施策番号 13
政策4	安心して暮らせる健康づくりの推進	
	一 施策1 健康の保持・増進の支援	…施策番号 14
	- 施策2 保健衛生の充実	…施策番号 15
	- 施策3 地域医療体制の充実	…施策番号 16
政策5	人権を尊ぶ明るい社会の形成	
	- 施策1 人権尊重社会の実現	…施策番号 17
	- 施策2 男女共同参画社会の実現	…施策番号 18

佐年の無田

一 肥東の	/低安		= -0 = -0
施策番号	6 (2-1-1)		まち ひと しごと
分 野	保健・福祉分野	担当部局	こども未来部・保健福祉部
政 策	少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援	担当課	こども政策課
施策	結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援		
	若い世代が結婚や妊娠・出産についての希望をかなえ、子育 温かい社会の中で安心して子どもを育てている。	てに楽しさや喜	びを感じながら、

SHELINGS SHEEKING SHEELING

※ SDGsとの関連				社会						環境			経済				全体
	貧困 飢餓 保健 教育 ジェン オ		不平等	平和	水· 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋 資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続可能 な都市	生産と 消費	実施手段			
	188	2 (1)	3 0 0	a materia	5 総計門	10 : 27 ***	16 1000	6 7 2		13 200	M attack	田 切 ·	8 823	8 (B)(0.0)	11 55 11 50		17 main (2)
	Treffet	222	-w/>		⊕ *	*€*	Y ,	Ē	-6	0	70		m		ALL	00	&
主要な目的に該当するゴール			0		0		0										0

指標の推移等

ŕ	指標の推		·		W 11.	++ 244-1-+-	1	後期基本語	十画期間口	中の実績値	直	目標値
		P	字 容		単位	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)
r	価①	子どもを	産み育てやすい地	域である	%	(R3) 55. 9	50. 7	45. 3	45. 1			7
ン	R6年度実 績値の理由	てにお	比で40代と70歳以上を降 金がかかるなどといっ7 ーから公園や遊び場の2	たものがあり、	物価高の影	響等により	子育におけ	る経済的なな	負担感が増り			
一下指			ている家庭を温か には手助けしてい		%	(R3) 46. 4	43. 5	47. 4	44. 9			7
標	R6年度実 績値の理由	モニタ	比で18歳〜30代は肯 一からの意見では子 に加え、少子化の影	育て世帯が近	所や身近に	こいないな	ど、新型コ	ロナの影響	撃などによ)交流が減	ってい
	合計特殊出生 (年)	生率	一人の女性が生涯 もの数	に産む子ど	_	(R2) 1.41	1. 41	1.30	令和7年 10月頃算 定予定			1. 65
	R 6 年度実績	値の理由	企画課	令和6年の数 よる婚姻数の							であり、コ	ロナ禍に
粉言指標	・ 子育てが「§		就学前児童の保護 児童の保護者の状		%	(R2) 就学前 児童 88.0	90.6	94. 30	90. 80			就学前 児童 91.0
	合		儿里》/休暖省 074八	v -		小学生 児童 90.9	_	90. 70	95. 47			小学生 児童 94.0
	R 6 年度実績	値の理由	こども政策課	就学前児童につまり、些細なこうな状況が影響 小学生児童につり子育てが楽し	ことでイラ/	イラしたり、 と思われる。 N出や他者と	子どもと追 : の交流なと	るごす時間が がコロナ福	十分に取れ	ないなどの	訴えがあり	、そのよ

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目 指す状態や指 標の目標達成 に向けて取り 組んだ内容 ・こども総合支援センター(「あのえっと」)の周知のため、周知用マグネットを三歳児健診時に対象児の保護者に配布したほか、ポスターを300枚作成し、保育園、認定こども園、幼稚園、小中学校、保健センター等に配布し掲示を依頼した。(こども総合支援センター) (改善を行っ た内容を中心 に記載)

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題

- SDG s の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
- 支援事業の制度が十分周知されていない。また、結婚のきっかけまでには至っていない。 (移住推進課)
- (移住推連課)
 ・事業規模の膨らんだ放課後子どもブラン事業を円滑かつ安定的に継続できる体制を構築し、児童増加に伴う居室不足や延長時間拡大の要望への対応、老朽化や居室不足に伴う施設整備、支援員等の確保体制を確立していく必要がある。(こども政策課)・出産・子育て応援交付金事業が合和7年度から妊婦支援給付金制度に移行することに伴い、出産予定日の8週間前から給付金申請が可能となり、産後の訪問や面談率が低下することが懸念される。(健康理解)
- ・産後ケア事業所への市からの委託料が5年ほど据え置きとなっており、持続可能なサービス提供のた
- 金、野業所から見直しの要望がある。 (健康課) ・物価高騰が進む中、今もなお子育でに係る経済的負担を感じている子育で家庭は少なくないものと認 しており、保育料の更なる軽減拡充の必要性について引き続き検討が必要と考えている。 (保育・幼
- ・こども総合支援センター「あのえっと」の更なる周知を図り、関係機関との連携を進める必要があ (こども総合支援センター)

・家庭・職場・地域など、市全体での子育て世代に対する支援の取り組みをつなげる必要がある。

- ・結婚新生活支援事業について、広報ながの等による周知を継続して行う。(移住推進課)
 ・事業の新たな受け皿である「一般財団法人ながのこども財団」において、安定的かつ持続的な事業を確立し、サービスの更なる充実を図っていく。さらに、支援員等や居室の確実な確保、医療的ケアが必要な児童への対応などに取り組んでいく。(こども政策課)
 ・妊婦支援給付金制度開始後も、給付金案内の時期を現状通り妊娠届出時及び新生児訪問時とすることで、引き続き経済的支援と相談支援を有効に組み合わせ、母子の状況を確実に
- ・ 正確となる行立を開及い場合と、新月金菜にもの時別を発水通りなが、福田市で及び物土元が同時でとすることと、引き続いた経済的又後と有 地程していく。(健康課) ・産後ケア事業が国の子ども・子育で交付金事業に位置付けられたため、財源を有効活用しながら利用料見直しを図る。(健康課) ・保育料の軽減は、近年多くの自治体が取り組んでいる。国や他市の動向を注視していく。(保育・幼稚園課) ・こども総合支援センター「あのえっと」の周知とともに、相談に対するハードルを下げ、相談しやすい環境づくりを進める。

□ 肥束♡	/似安		A STATE OF THE PARTY OF THE PAR
施策番号	7 (2-1-2)		まち ひと しごと
分 野	保健・福祉分野	担当部局	こども未来部
政 策	少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援	担当課	保育·幼稚園課
施策	子どもの成長を育む支援環境の充実		
	乳幼児期の子どもが、安心感や人への信頼感を土台にして健* 基礎となる力を着実に育んでいる。	やかに育ち、その	刀後の発達・成長の

※ SDGsとの関連				社会						環境			経済				全体
				教育	ジェン ダー	不平等	平和	水・ 衛生	エネル ギー	気候 変動	海洋 資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続可能 な都市	生産と 消費	実施 手段
	i të Bithir		3 10 Mi		÷@*	10:000	K			O ::	H TO	# (H)	8 2	i. 🚧	33 = =	CO	17
主要な目的に該当するゴール				0			0									_	0

指標の堆移等

_	<u> </u>	指標の推	恀守										
			Þ	タ 容		単位	基準値	:	後期基本語	計画期間中	Pの実績値	ĺ.	目標値
			r	1 4		中世	至中旧	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)
		関する評		保育所・認定こども 保育が充実している		%	(R3) 51. 5	49. 7	45. 1	47. 0			7
27		6年度実 値の理由		斤・認定こども園の 5。一方で、提供す									がっ
丰	一の一	答者自身 実践状況		子育てしている家屋 必要な時には手助に		%	(R3) 46. 4	43. 5	47. 4	44. 9			7
仓		6年度実 値の理由		て世代が相互に支え っ多かった。	合いたいとい	いう意識は	あるが、	具体的に	手助けする	が機会やき	つかけが	がないと	いう
		育所の福祉 第三者評価		計画期間中に福祉 三者評価を受審し 割合		%	(R2) 43. 4	41. 1	40. 0	40.0			65. 0
	充 十	6年度実績	値の理由	保育・幼稚園課	公立が、5 ⁴ く、受審率が				審している	るが、私立	とで受審し	ている園	が少な
	票絵	本の読み聞	で日頃、子どもに の読み聞かせをし る保護者の割合 市内の幼稚園・保育 も園に通園している 者の状況			%	(R2) 89. 3	88. 2	88. 9	87. 5			90. 0
	R	6 年度実績	値の理由	保育・幼稚園課	日々の忙しさ くなってきて							感じている	る家庭が多

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R6年度に目 指す状能や指 標の目標達成 に向けて取り 組んだ内容

(改善を行っ

・保育土確保のため、保育土養成校への情報提供、保育士を目指す人と現場保育士との懇談会開催、潜在保育士の職場復 帰支援研修に参加するなどした。また、職員採用試験の募集要件に最終学校卒業後3年未満の者を加えた

・長野市乳幼児期の教育・保育の指針に基づき、公立保育所において県が認定する「信州型自然保育認定制度」に取り組ん

・幼保小の円滑な接続に向け、市内全ての保育所、幼稚園、認定こども園が、小学校教育のスタートカリキュラムにつながるフ プローチカリキュラムを作成した。市内7支会で開催される幼保小連携会議や、公開保育、公開授業の検討会の機会を活用し て意見交換を行った。また、学校教育課と協働して長野市版架け橋期のカリキュラムを作成し、令和7年度より全市で実施でき るようにした

た内容を中心に記載) ・キャリアアップ研修会に加え、課題別研修や公立園の公開保育等に私立園及び連携中枢都市圏の市町村のも参加を募る ことで研修が充実し、共に資質向上につながった

・園だよりや絵本だよりなどにより、各園が保護者等に絵本の読み聞かせを行うための啓発を行った。

4 課題と今後の展開

SDG s の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス) 目指す状態・指標達成に向けた課題

- ・養成校の学生や潜在保育士に対する就業・職場復帰支援、小・中・高校生
- ・養成校の学生や潜化保育工に対する就美・職務復帰支援、小・甲・高校生に対する保育の仕事の魅力伝達が必要である。 ・保育所保育指針等に合わせた研修体系、研修内容の見直しを行い、保育者 の資質・専門性の更なる向上について継続的に取り組む必要がある。 ・子育て支援センター数が増加し、特に0歳児の親子の利用や父親の積極的な 参加も増えたため、利用者が増加傾向にある。引き続き、誰もが利用しやす い場の提供していくことで子育ての孤立化を防ぐとともに、絵本の読み聞か と教育・保育施設等との連携を促進する。 せの大切さを周知する等、子育て支援を推進していく。

- 県内外の保育士養成校への採用情報等の積極的な発信、就職ガイダンスへの参加、現場保育士との懇談会などに引き続き取り組
- むとともに、将来的な保育士確保のため、職場体験等を通じ小・中・高校生に保育の仕事のやりがいや魅力を伝える。 ・保育所保育指針等に沿って適切に教育・保育が進んでいるか、カリキュラム・マネジメント(指導計画案のPDCA)を循 し、常に教育・保育の質の向上を図るとともに、オンラインを活用し多くの職員が研修に参加することで、質の向上を図る。
- ・保育士が積極的に読み聞かせを子ども達に実践するとともに、保護者にはその効果を説明しながら、積極的に啓発を行う。 ・保育所等から認定こども園への移行が増えていることで、より質の高い教育・保育を望む保護者の声が高まっている。保育者の 資質、専門性を向上できるように分野別(課題別) 研修等の充実を図り、保護者と協力しながら、ともに子どもの育ちを支えてい

施策番号	8 (2-1-3)		ひと
分 野	保健•福祉分野	担当部局	こども未来部
政 策	少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援	担当課	子育て家庭福祉課
施策	社会的援助を必要とする家庭等の自立支援		
施策の	子育てに関わる保護者等が悩みを抱え込むことなく相談につ	 なげられ、すべ	ての子どもが安定し

※ SDGsとの関連				社会						環境				全体			
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・ 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋 資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続可能 な都市	生産と 消費	実施 手段
	1 (%) 1:494.4	\$::::	3 12 12 A	4:2.m	•	10 ser** *\$>	16 17 27	. D	0	13 :::::	14 5.5	16 = -	8 :::::	9 227977	######################################	8 ::	17
主要な目的に該当するゴール	0				0	0	0						0				0

2 指標の推移等

Ė	- 1日1示り71日	יי עוי					1	么抽甘木	計画期間中	つの宝徳伝	÷	口捶法
		Þ	勺 容		単位	基準値	R4	友 <u>男 基 平 i</u> R5	下四朔间日 R6	コの夫頼他 R7	R8	目標値 (R8)
ア	環境・体制に関する評価①	工目で出	の保護者が悩みを打 る体制が整ってい。		%	(R3) 26. 8	26. 6	24. 4	25. 4	IV.	No	7
ンクー	R 6年度実 績値の理由		きでの若年層は、肯 ○周知が行き届いて					、40歳以	上では割	合が逆転	しており、	相談
- ト 指 標	回答者自身 の実践状況 ①	(設定な	し)		_	(R3) -	-	_	-	-	_	
仿	R 6年度実 績値の理由											
総言指	- 率		高等職業訓練促進給 養成機関を修了した 業者の割合		%	(10人/10人)	(8人/8人)	(8人/8人)	(5人/5人)			100
	R 6年度実績	値の理由	子育て家庭福祉 課	養成機関を何	多了した 🛭	全ての者か	ぶ就業した	•0				

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R6年度に目 指す状態や指 標の目標達成 に向けて取り 組んだ内容

- ・こともの貧困の解消に回けた対策の推進に関する法律に基づく貧困対策計画を推進した。
- ・児童福祉法に基づく「こども家庭センター」を設置するとともに専門職を配置し、母子保健部門と連携して、 子どもと家庭への継続的な支援を行った。
- ・ひとり親家庭の様々な悩みに対応するため、母子・父子自立支援員による情報提供やアドバイスなどを行うとともに、弁護士等による「ワンストップ相談会」の開催や、就労しているひとり親に対する負担軽減を図るため、平日夜間に児童扶養手当現況届の受付窓口を開設した。
- ・ひとり親家庭の子どもの生活・学習支援を実施した。

<mark>目指す状態</mark> た環境の中、地域に見守られながら、安心して暮らしている。

(改善を行っ た内容を中心 に記載)

- ・こども総合支援センター「あのえっと」において、こどもに関する相談をワンストップで受けるとともに、必要に応じ関係機関と連携し支援に繋げた。
- ・ヤングケアラーに対する支援として、ヤングケアラーに関するパンフレットや動画を市内小中高校へ配布ししたほか、市政出前講座や市報、公式SNSなどで広報啓発を行い、またコーディネーターが実際、相談支援を行って、家事支援等によ繋げている

4 課題と今後の展開

SDG s の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス) 目指す状態・指標達成に向けた課題 ・すべての子どもが将来に夢や希望を持って成長していける社会の実現 を目指し、全庁的に、また地域や社会全体で貧困の連鎖を断ち切るため 取り組む必要がある。 ・増加する児童虐待に対応するため「こども家庭センター」が、市保健 所健康課と連携し、切れ目のない支援を行うための更なる体制整備が必 貧困をはじめ、家庭環境により子どもの将来が閉ざさ 要である。 れ、取り残されることがないよう、ひとり親等の子育 て家庭に支援をしていく必要がある。 ・子育て中の保護者の多様な相談に応じているが、必要な支援に繋げら れるよう、関係機関との連携強化が必要である。 ・ひとり親家庭の経済的自立促進のためには、各種制度等を広く周知 し、支援に繋げていく必要がある。 ・ヤングケアラー支援には、自身や周囲の気付きが必要であり、そのた め更に社会的認知度向上のための施策を行うとともに、支援へ繋げてい くための方策を検討していく必要がある。

- ・子どもたちへの貧困の連鎖を断ち切るため、「長野市子どもの貧困対策計画」の各施策を、庁内関係課、外部関係機関が連携 して継続的に取り組む。
- こども総合支援センター「あのえっと」において子どもに関する様々な相談に応じ、必要な支援に繋げるとともに、相談に対
- ・ことも総合又後ピンター「めのえらと」においてするもに関する様々な相談に応じ、必要な又後に繋けるとともに、相談に対するハードルを下げ、相談しやすい環境づくりを進める。 ・令和6年度に開設した「こども家庭センター」が、その機能を十分発揮できるよう、市保健所との連携強化を図るとともに、 児童福祉機能として、専門職員を確保し、児童虐待の早期発見や支援が必要な児童、家庭への適切な支援に繋げる体制の強化を
- ・就労等により昼間相談ができないひとり親家庭を支援するため、休日のワンストップ相談会を開催し、悩みや問題を把握し て、解決に向けた助言や情報提供を行う。
- ・ひとり親家庭の自立や経済的負担の軽減を図るため、あらゆる機会を通じてひとり親家庭に対する支援制度を周知するととも
- に、就業に結び付く可能性の高い資格取得や、高等学校等への通学費の支援などを継続して行う。 ・ヤングケアラーの社会的認知度向上のため、引き続き、広報啓発活動などにより広く周知するとともに、令和7年度に予定しているヤングケアラーを対象としたアンケート調査により、直接支援を行い、また支援ニーズの調査により有効的な施策を検討していく。令和6年度から実施している「子育て世帯訪問支援事業」についても継続して周知及び事業実施に取り組む。

1 施筆の概要

1 //巴米 02	MM S		= -6 = -6
施策番号	9 (2-2-1)	at in the second	まち ひと しこと
分 野	保健·福祉分野	担当部局	保健福祉部
政策	生きがいのある豊かな高齢社会の形成	担当課	高齢者活躍支援課
施策	高齢者の社会参加と生きがいづくりの促進		
	高齢者が自らの経験や能力を活かして積極的に社会に参加し、 いきいきと暮らしている。	様々な場面で生	きがいを感じながら

分野横断 分野横断

※ SDGsとの関連				社会						環境				経	済		全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・ 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋 資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続可能 な都市	生産と 消費	実施 手段
	1 255 Byřád	2:1:	3 17 17 . -W*	4:2**	.	10 Mer**	K 3	•	÷.	6 iii	14 5.7	16 *	8 1111	\$ €	**************************************	8 ::	17
主要な目的に該当するゴール			0				0						0				0

		担保の推	াপ প্										
			Þ	內 容		単位	基準値	1	後期基本語	計画期間中	中の実績値	Ĺ	目標値
			r) 谷		单位.	基毕 胆	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)
- /	に	関する評		ボランティアや学 ³ と関わる活動をしいる		%	(R3) 39.8	36. 5	34. 0	34. 0			1
ンノイ		6年度実 値の理由		ロナウイルスの感染 る場所や集まる事に					傾向が続い	たことから	ら、外出機	会の減少や	℃、人
‡]答者自身)実践状況)	(設定な	L)		_	(R3) -	1	_	_	_	_	_
1	R	6年度実 値の理由											
言才	十 旨	ご会参加して 我以上の市日	ている60 民の割合	「就労(仕事に就き 得ている)」「ボラ 「興味関心のある活 と関わる活動をして の市民の割合	ンティア」 動」等、社会	%	(R2) 81. 4	79. 6	81.0	82. 5			84. 4
木	標 R6年度実績値の理由 課 高齢者活躍支援 就労の期					が延びてい	いる						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R6年度に目 指す状態や指 標の目標達成 こ向けて取り 組んだ内容

- ・利用者の声を取り入れながら各種講座を改善しかがやきひろば(16施設、講座等受講人数42,898人、講座回数 2,484回)で活発に実施した。新型コロナウイルス感染拡大前の受講者を取り戻している。高齢者の心身の健康維持、閉じこもりの解消と社会参加の促進に取り組んだ。
- ・「ながのシニアライフアカデミー」は、民間事業者のノウハウを取り入れたカリキュラム等のほか、リモートによる聴講を実施した。(令和6年度卒業生34名)
- ・令和5年度に引き続き、シニアディスコダンスイベントを開催し、外出やフレイル予防の機会を創出した。 (延べ参加総数240名)

(改善を行っ た内容を中心 こ記載)

・生涯現役促進地域連携事業で効果的だった高齢者向け就労支援事業の開催や職業相談窓口で高齢者の就労を支 援した。(就労支援事業参加者46名、窓口相談355件)

4 課題と今後の展開

SDG s の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス) 目指す状態・指標達成に向けた課題 ・アンケート指標について肯定的評価の増加を目指す。 ・外出機会の増加による高齢者の心身の健康維持を目指す。 ・ (保健) 健康寿命を延伸する取り組みが引き続き必要。 (平和)透明性・公平性の高い高齢者施策の展開 ・ (経済成長と雇用) 高齢者に対する公平な就業機会の確 ・高齢者の生きがいについてのニーズを把握し、多くの方に参加できる 取組にしていく。 保。

- ・かがやきひろばの指定管理者と連携・協力し、より魅力的な講座の実施と自主グループの活動促進を図る。
- ・基本的な感染症対策を行いながら、各事業の活動やイベント等への更なる参加を促し、生きがいづくりやフレイル予防、社会 参加の機会回復を目指す。

١	施策番号	10 (2-2-2)		テーマ(1)
	分 野		担当部局	保健福祉部
	政策	生きがいのある豊かな高齢社会の形成	担当課	地域包括ケア推進課
	施策	地域包括ケアシステムの深化・推進		
	施策の 目指す状態	高齢者が自ら介護予防・健康維持の取組を実践するとともに、介護 地域の中で、必要な介護を受けながら最期まで自分らしく安心して		なっても、住み慣れた

分野機断

※ SDGsとの関連		社会								環境					経済			
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェン ダー	不平等	平和	水・ 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋 資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続可能 な都市	生産と 消費	実施 手段	
	1 05 04984	7.7. 5 (1)	3 12 14. -W*	4:2	-@ [*]	10 3557*	16 17 25	•	7. O .	13 222 23	14 5.7	16	8 :::: 8	9 (2019)		8 ::	17 ₩	
主要な目的に該当するゴール			0				0										0	

2 指標の推移等

ŕ	1日1示り71氏	ידי עוי					1	么 批 甘 未 言	上面田間日	中の実績値	5	日捶荷
		Þ	內 容		単位	基準値	R4	及州基平。 R5	1 四 7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	R7	R8	目標値 (R8)
	環境・体制 に関する評 価①		住み慣れた地域で 境が整っている	暮らし続け	%	(R3) 42. 9	42. 3	38.8	36. 8		110	7
アンケー	R6年度実 績値の理由		店舗の減少や免許返 する評価は高く、ま					こついて否	定的評価。	が多い。一	方で介護サ	ード
ト 指 標	回答者自身 の実践状況 ①		高齢者を温かく見 [*] 手助けしている	守り、必要	%	(R3) 54. 7	52. 5	55. 7	53. 4			1
124	R6年度実 績値の理由		代と高齢者世代で特 っていたら手助けを					もご近所の	買い物を	手伝うなど	、高齢者を	:見守
計	要介護状態 高齢者の割		高齢者(65歳以上) 護認定(要介護1~ いない人の割合		%	(R2) 86. 8	86.8	87. 1	86.9			87. 1
指標	R 6 年度実績	値の理由	介護保険課	前年度比較で R5:12.9%(認定								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R6年度に目 指す状態や指 標の目標達成 こ向けて取り 組んだ内容

(改善を行っ

た内容を中心

こ記載)

- ・介護予防に資する住民主体の通いの場事業を推進するとともに、介護予防に関心がそれほど高くない市民への
- 周知・啓発を目的に、予約なしで参加できる「ふらっとフレイル予防体験」を実施した。 ・活動の場や買い物、移動など、様々な生活課題に対して、生活支援コーディネーターを中心とした検討会等で の取組を支援している。
- ・高齢者の在宅療養生活を支えるため、医療機関や介護関係者の多職種が、対象者の医療等に係る情報を即時か つ効率的に共有できる在宅医療・介護連携システムの普及を図った。
- ・地域密着型サービス等の整備を進めるため、計画に基づき整備事業者を公募し選定すると共に、事業を実施で きるよう必要な支援を行った。併せて効率化、老朽化、防災等への対策のため、事業所へ支援を行った。

4 課題と今後の展開

I	目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題(該当ゴール及び三側面のバランス)
		・だれもが積極的に参加する、自主的な支え合い活動 を広げることで高齢者のみならず、あらゆる年齢の人 の健康的な生活と福祉の推進につなげる必要がある。
I	し 計画順の 級池 に 向けて 必 面 おこ し (無 順 級	池に向けてめるベキャト)

- ・生活支援コーディネーターや地域包括支援センターと連携し、住民による「活動の場」や生活支援などが実現、継続できるよ うに支援を行う。
- ・必要な介護サービス提供が確保できるよう、地域密着型サービス等の整備を進めるとともに、介護サービス事業所の人材の確 保・育成を支援するため、職場環境改善及び職員の資質向上に関するセミナー等を開催する。

目指す状態

施策番号	11 (2-3-1)		まち ひと しごと
分 野	保健·福祉分野	担当部局	保健福祉部
政策	だれもが自分らしく暮らせる社会の形成	担当課	障害福祉課
施策	障害者(児)福祉の充実		
施策の			

障害の有無によって分け隔てられることなく、だれもが自分らしく安心して暮らしている。

分野横断 分野横斷 分野横断

※ SDGsとの関連		社会							環境					経済			
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水· 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続 可能 な都市	生産と 消費	実施 手段
	13% 1 1984	7.7. 5 T.	3 to 11. -W*	4:2.*	© "	10 ::e7* (⊕)	16 17 25	٠ ټ) O	•	14 1.17	16	8 :::::	9 (2) (4)		8 ::	17
主要な目的に該当するゴール				0		0	0						0		0		0

指標の推移等

Γ		P	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		単位	基準値	1	後期基本語	十画期間中	中の実績値	Ĺ	目標値	
		P	1 台		平位.	至毕旭	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)	
	環境・体制 に関する評 価①	早青いめ	る人が安心して暮 環が整っている	らせるサー	%	(R3) 22.8	24. 3	22.4	22.6			7	
	R6年度実 績値の理由		的な意見では、多様 こ関する項目が挙げ										
才	ト 回答者自身 の実践状況 票 ①	陣舌のめ	る人を見かけた時 気にかけるように		%	(R3) 64. 5	64.6	63. 9	64. 3			1	
11.	R 6年度実 績値の理由		直は近年横這い傾向 ひある人を支えると					ート項目	中でも常	に上位に位	立置しては	ઝેળ 、	
E	売 一般企業の 計 用率(年) 指	障害者雇	企業が雇用する常 に占める障害者の		%	(R2) 2. 28	2. 39	2.47	2. 56			2. 53	
	票 R 6年度実績	責値の理由	障害福祉課	障害者雇用	『香雇用に対する社会的認知が広がっているため。								

目標達成に向けた取組内容と実績

R 6年度に目 指す状態や指 標の目標達成 に向けて取り 組んだ内容

(改善を行っ た内容を中心 こ記載)

障害者に対する理解を深めるため、長野市障害者権利擁護サポートセンターでは、市民を対象とした障害者差 別解消研修を年6回実施し、延べ625名の参加があった。また、本市が設置している長野市障害ふくしネットにおいて、12月の障害者週間に先立ち、11月6日に「ふくしネットフェスタ」を開催し、障害のある方が作製したアート作品の展示、福祉事業所による食品類の販売などの啓発活動を行ったほか、障害のある人にやさしいお店 登録制度について広く広報するためタウンミーティングを開催した。

4 課題と今後の展開

- ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題(該当ゴール及び三側面のバランス)
・相談支援事業所や地域活動支援センター等の地域資源が偏在し、居住地区により障害福祉サービスにつながりにくい状況がある。 ・障害者と市民との交流が少ないため、障害者への理解を深める機会が十分でない。	「誰一人取り残さない」社会の実現という理念に鑑みて、より高い満足度の水準が求められている。
ト記無期の解決に向けて必要なこと(無期解	(沖に向けてめるベキェレ)

- ・新たに設置する基幹相談支援センターで人材育成や地域連携を担い、委託相談専門員を集約配置した北部・南部の相談支援セ
- ンターと連携することで、障害に係る様々な相談について対応できる様、機能強化を図る。 ・障害者週間や各種研修、講演会の開催による啓発活動に加え、「長野市障害者にやさしいお店」登録店を増やすことや農福連 携による就労機会の提供などの取り組みを通じ、障害者への理解や障害者による社会参加の促進を図る。

くいきいきと暮らしている。

1 施策の概要

目指す状態

. /////			
施策番号	12 (2-3-2)		テーマ① まち
分 野	保健·福祉分野	担当部局	保健福祉部
政策	だれもが自分らしく暮らせる社会の形成	担当課	福祉政策課
施策	認め合い、支え合い、活かし合う地域社会の実現		
施策の	市民一人ひとりが、地域の中で互いに認め合い、支え合い、活	かし合いながら	、安心して自分らし

※ SDGsとの関連		社会								環境					経済			
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・ 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋 資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続可能 な都市	生産と 消費	実施 手段	
	1 IV. Dyblid	5 ::::	3 12 14. -W*	4:2	• •	10 3557*	16 17 25	•	7. O .	13 222 23	14 5.7		8 :::: 8	9 (2019)		8 ::	17	
主要な目的に該当するゴール			0				0								0		0	

2 指標の推移等

	10 100 07 10	Þ	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		単位	基準値	í	後期基本語	中画期間中	中の実績値	Ĺ	目標値
		r	1 台		中位	本 年 旭	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)
ア	環境・体制 に関する評 価①	ご近所に る人間関	おいて、支え合い、 係が築かれている	助け合え	%	(R3) 42.8	41.3	40.8	40.8			7
ンケー	R 6年度実 績値の理由	ם ב	・ナ禍による活動制限	の影響によりi	近所付き合	いの希薄化	公に繋がっ?	たが、よう	やく、元に	こ戻る兆し	がある。	
- ト 指 標	回答者自身 の実践状況 ①		士で交流をし、困・ け合える関係を築。		%	(R3) 57. 6	59.6	58. 4	58. 1			1
1示	R 6年度実 績値の理由	コロ ていな	! ナ禍が収束し、ご近 :い。	所同士の交流	が元に戻り	つつあるー	一方で、助り	け合える関	係を積極的	りに築くと	ころまでは	は戻っ
統計指		取り組ん	地区地域福祉活動計 の把握や計画の検証 り組んでいる地区数			(R2) 32	32	32	32			32
	R 6年度実績	値の理由	福祉政策課	市社協地域社 検証、見直				として、	各地区地	域福祉活	動計画等の	の評価・

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R6年度に目 指す状態や指 標の目標達成 に向けて取り 組んだ内容

【地域福祉推進事業補助金】担当:福祉政策課・地域包括ケア推進課

【地域倫征推進事業補別金】担当:福祉政東縣・地域包括ケノ推進課 各地区において地域福祉推進の中心的役割を担う地域福祉ワーカーの活動を後押しするため、情報交換等の場である地域福祉ワーカー連絡調整会議を開催した。地域福祉ワーカーの意見・要望を踏まえた会議の企画、及びコロナ禍後の活動再開に係る課題を地区同士で共有・検討する情報交換会を行った。また、前年度に続き社会福祉法人等福祉関係者との情報共有・交換を目的としたネットワーク会議を開催し、市内のさまざまな地域福祉関係者と繋がる機会とした。 【地域たすけあい事業】担当:地域包括ケア推進課

(改善を行った内容を中心に記載)

地域の住民同士が有償で支え合い活動を行う長野市社会福祉協議会の「地域たすけあい事業」について、担い手の確保と地域の実情に応じた支援内容の拡充に向けて、複数地区の検討を支援した。

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
	少子高齢化の進行や単独世帯の増加により、家族関係 や地域住民相互のつながりが希薄化する中で、社会的 孤立などの福祉課題が顕在化してきている。

上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)

【地域福祉推進事業補助金】第四次長野市地域福祉計画に基づいた地域福祉ワーカーの雇用を含めた住民自治協議会の負担軽減については、住民自治リフレッシュプロジェクトによる検討を踏まえ一定の方向性を示す。また、住民自治協議会と行政等との適切な役割分担についても現状等を踏まえ、検討を継続する。 【地域たすけあい事業】地域の実情に応じた支え合い活動を推進できるように、支援内容や体制について地域住民との検討を支援する。また、支え合い活動の基盤となる住民同士の交流や活動の促進に向けた取り組みについても支援する。

施策番号	13 (2-3-3)			まち
分 野	保健•福祉分野		担当部局	保健福祉部
政 策	だれもが自分らし	く暮らせる社会の形成	担当課	生活支援課
施策	生活の安定と自立	への支援		
施策の 目指す状態		はりめぐらされたセースなく安定した生活を送っ	、その状況に応	じて可能な限り自立

※ SDGsとの関連		社会								環境				全体			
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・ 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋 資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続可能 な都市	生産と 消費	実施 手段
	1.05 N984	7// 5 :::	3 L. L.	*: =	- -	10 ::::::::::::::::::::::::::::::::::::	K 39	•	7. 0	13	14 4.7	H	8 22	8 Minte), = 	8 ::	17 (88)
主要な目的に該当するゴール	0					0	0										0

2 指標の推移等

	- 1日小木・ノ1圧	ď	·		単位	基準値	1	後期基本計画期間中の実績値					
		r	1 台		中位	本中但	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)	
フ		生活に困 整ってい	った時に相談でき <i> </i> る	る体制が	%	(R3) 24. 7	23.8	24. 7	23. 7			1	
ころり	R6年度実 績値の理由		9等により生活困窮者の 3談件数は増加してい。							の周知に	努めている	が、	
计指標	、回答者自身 の実践状況 ①				I	(R3) -	_	1	1	1	_	_	
12.	R 6年度実 績値の理由												
総言	た人の割合		「まいさぽ長野市」 ける、就労支援を必 うち、支援により実 人の割合	要とする人の	%	(R2) 67. 0	50.9	55. 9	42.4			62. 1	
	R6年度実績	値の理由	生活支援課	事業者の† 実施したたと			と と と と と と と と と と と に り に り に り り り り			員による	きめ細かれ	な調整を	

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R6年度に目 指す状態や指 標の目標達成 に向けて取り 組んだ内容

- ・広報ながの3月号及び12月号に長野市生活就労支援センター(まいさぽ長野市)の情報を掲載し、生活困窮者 の相談窓口の周知を図った。
- ・併せて、リーフレットや手軽に扱えるカード型チラシを作成し、地域で活動する民生児童委員などに配布する ことにより、きめ細かな周知に努めた。
- ・ハローワーク長野の「福祉・就労支援コーナー」(ジョブ縁ながの)、市のケースワーカー及び就労支援員による会議を通じ、支援が必要な生活困窮者への支援に係る連携強化に努めた。

(改善を行っ た内容を中心 に記載)

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題 SDG s の視点からの課題(該当ゴール及び三側面のバランス)

- ・生活に困ったときの相談窓口である「まいさぼ長野市」の認知度を高めるため、「まいさぼ長野市」の事業内容についても、広く周知する必要がある。
- ・複雑かつ複合的な課題を抱えた相談が増加しており、それらに対応するため、関係課・機関との連携を更に緊密にしていく必要がある。
- ・生活に困窮する者を確実に支援につなげていくこと と、自立の助長に向けた就労の支援などが重要であ る。

分野機断

・貧困の連鎖を断つためには、生活困窮世帯の子どもに対する学習の支援も必要である。

- ・支援が必要な世帯に支援がつながるよう、「まいさぽ長野市」を含め関係各課の連携を更に深めるとともに、アウトリーチも 含めた積極的な周知方法について、検討を行う。
- ・複合的な課題に対応するため、職員等のスキルアップを行うとともに、重層的支援体制の整備に合わせて、関係課・機関の間 の連携が円滑かつ的確に行えるよう取り組みを進める。

1 施策 <i>0</i> 施策番号	0概要 14(2-4-1)		対野横断 テーマ① テーマ② まち ひと
分 野	保健·福祉分野	担当部局	保健福祉部
政 策	安心して暮らせる健康づくりの推進	担当課	保健所健康課
施策	健康の保持・増進の支援		
	市民一人ひとりが健康の大切さを認識し、生涯を通じて主体的 しく生きがいをもって生活している。	勺に健康づくりし	こ取り組み、自分ら

Ж	SDGsとの関連		社会								環境			経済				全体
		貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・ 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続可能 な都市	生産と 消費	実施 手段
		189.	2 :111	3 11.00	4 ****	5 Comme	10 (25%)	16 THATE	6 22	1	13 milion	14 ****	and the second	8 :::::	9 :::::::	11 3000		17 (ett-27)
		Ťz Ý ŤsŤ		-₩•		₽	4 €≻	<u>×</u>	Å	O -	3	**		M		ALL	8	⊗
主要	な目的に該当するゴール		0	0				0										0

2 指標の推移等

Ī			Þ	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		単位	基準値	í	发期基本語	計画期間中	口の実績値	直	目標値
			P	1 谷		半世	左 毕他	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)
	ア	環境・体制 に関する評 価①	健康づく 整ってい	りに取り組みやす る	い環境が	%	R3 43. 7	41.2	39.8	41.3			7
	ンケー	R 6年度実 績値の理由	コロラ	汁禍で市民の意識 に	上影響があった	たが、少	しずつコロ	コナ禍前の	分状態に戻	 りつつあ	る。		
 	- ト 岩 票	回答者自身 の実践状況 ①	健康づく	りに継続的に取り	組んでいる	%	R3 62. 9	63.8	62. 7	63. 0			7
1	示	R 6年度実 績値の理由	微増し	しているもののほほ	ばばいであ	り、健康・	づくりに糺	迷続的に耳	うり組んて	ごいる者は	に同程度で	ご ある。	
		健康寿命(名	手)	介護保険の要介護認 数等を用いて算定し 日常生活動作が自立 いる期間の平均	た、	年	(R2) 男81.1 女84.8	(R3) 男81.4 女85.0	(R4) 男81.5 女85.5	(R5) 男82.1 女85.4			平均自 立期間 の延伸
		R6年度実績値の理由 健康課		健康課									
対言され		75歳未満の7 率	がん死亡	75歳未満における、 10万人当たりのがん 齢調整死亡率		_	(R2) 60. 0	(R3) 60. 8	(R4) 58. 0	(R5) 56. 3			減少傾向
t	票	R 6 年度実績	値の理由	健康課									
		メタボリッ? ローム予備和 者の割合		40~74歳におけるメシンドローム予備群者であると診断され合	または該当	%	(R2) 男 50.1 女17.4	(R3) 男51.0 女17.3	(R4) 男50.3 女16.8	(R5) 男50.2 女16.8			男33.0% 以下 女11.7% 以下
		R 6年度実績	値の理由	健康課									

3 目標達成	に向けた取組内容と実績
	▶フレイル予防・健康寿命延伸事業を部局横断的に推進【健康課関連事業】
D 0 左床) - 日	①生活習慣病予防対策事業
R6年度に目	(ながの健やか減塩プロジェクトの推進、重症化予防保健指導、糖尿病と関連がある歯周病疾患検診、青年期糖尿病予防講
指す状態や指	座、集団健康教育、健康サポート相談会等)
標の目標達成	②健幸ラジオ体操の普及促進、体力・健康チェックキャラバンの開催
に向けて取り	
組んだ内容	がん検診の受診促進
	①休日及び夜間の肺がん(結核)検診実施。休日女性がん検診の実施
(改善を行っ	②Webによる受診申込の開始
た内容を中心	③マンモグラフィ検査の上限年齢の撤廃
に記載)	④医療機関でのマンモグラフィ検査の開始
	⑤検診及び精密検査の受診勧奨の実施

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題(該当ゴール及び三側面のバランス)
	個人の健康は社会環境に強く影響されるため、社会環境の改善により個人の行動と健康を改善していくことが重要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解	決に向けてやるべきこと)

○地域・職場・学校等の関係機関・団体等に対して、健康づくりの環境整備や市民への啓発に積極的に取り組むよう働きかけを行う。○夜間・休日がん検診を活用し利便性の高い検診を提供するとともに、早期診断・早期治療につながるよう、精密検査受診勧奨等を行う。

佐竿の畑田

Ⅰ 肔東の	慨安		2337 ME
施策番号	15 (2-4-2)		デーマ① まち
分 野	保健•福祉分野	担当部局	保健福祉部
政 策	安心して暮らせる健康づくりの推進	担当課	健康課
施策	保健衛生の充実		
	感染症の流行に備えた体制が整備され、地域に密着した専門(り、だれもが健やかで安心・安全に暮らしている。	性の高い保健衛	生事業の提供によ

くいはこの数は行

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	3- 3- 3- 3- 3- 3- 3- 3- 3- 3- 3- 3- 3- 3					平和	水・ 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋 資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続可能 な都市	生産と 消費	実施 手段	
	1 att	5 ##:	√		5 . •	10:22:77	K 3		7	13 5551	6 }	15 % 2	8 ! 5	9 13.55	11 TO 12 TO	1000	7
主要な目的に該当するゴール			0				0	0									0

指標の推移等

Ī]日 (木・ノ)正・				兴仕	甘淮压	ĺ	炎期基本 語	十画期間中	コの実績値	直	目標値
		Þ	容 容		単位	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)
ア	環境・体制に関する評価①		トレスを感じた時 整っている	に相談でき	%	(R3) 18. 4	18.0	16.9	18. 2			7
ンケー	R6年度実 績値の理由	相談し	やすい環境づくり、	相談窓口の周	知が少しす	一つ進んでい	いる。					
- ト指標	回答者自身 の実践状況 ①	不安やス ようにし	トレスを一人で抱. ている	え込まない	%	(R3) 68. 4	69. 5	68.8	70. 2			7
衍	R 6年度実 績値の理由	出前講	座等による啓発によ	りがストレ	マスの解消の	の意義を知	ることがで	できている。	0			
統計指	自殺率(年)		人口10万人当たり	_	(R2) 15. 2	16. 7	16. 3	16. 1			12.9以下	
標	R6年度実績値の理由 健康課			20代女性の自	殺率がわっ	げかに改善	した。					

目標達成に向けた取組内容と実績

R6年度に目 指す状態や指 標の目標達成 に向けて取り 組んだ内容

に記載)

- ●悩みを受け止められる人材の育成(ゲートキーパー養成講座の実施)
- ・ゲートキーパー養成研修を市民向け、事業所(経営者)向け、若者向けに開催:参加者175人 地域・職場・学校等への出前講座で実施:1,079人
- ●ネットワークとしての自殺対策の取組
- ・自殺対策推進ネットワーク会議の開催:1回 ・相談支援者研修会の開催:2回
- ・いのちの支援相談窓口リーフレットの配布先数:1,298箇所
- ・総合相談会の実施:3回(長野地域中枢都市連携事業により実施)
- (改善を行っ ●世代に応じた自殺対策の推進 た内容を中心

【若者】・SOSの出し方に関する教育の実施:市内中学28校中28校実施

・高校、大学との連携による取組の実施校数(若者向けパンフレット配布先数):24校

【シニア世代】高齢者向けリーフレット配布数:1,059枚

4 課題と今後の展開

SDG s の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス) 目指す状態・指標達成に向けた課題 ・社会情勢の変化、価格高騰、著名人の自殺報道等の ・自殺死亡率が目標値を大きく上回っている。自殺者数の減少を目指し「誰も自殺に追い込まれることのない」社会の実現に向け、長野市自殺 社会情勢・社会環境の変化により自殺者の増減が影響 される。 対策行動計画(第二次)に基づき、更なる自殺対策の推進・強化を図 る。

- ・令和6年から令和11年までを計画期間とした自殺対策行動計画(第二次)に基づき、対策を講ずる。 ・基本施策として、「市民への普及啓発」「相談・支援体制の充実」「自殺対策を支える人材養成」「診療体制の整備」「関係 機関・団体との連携強化」の5つを基本施策として位置付け、取組を推進する。
- ・また、男性20代・30代、女性20代・60代への取組を重点施策とし、取組を強化する。

· //C//*.			= -74
施策番号	16 (2-4-3)		まち
分 野	保健·福祉分野	担当部局	保健福祉部
政 策	安心して暮らせる健康づくりの推進	担当課	医療連携推進課
施策	地域医療体制の充実		
施策の 目指す状態	だれもが必要とする時に、適切な医療サービスを受けている。		

※ SDGsとの関連				社会				環境						全体			
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水· 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋 資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続 可能 な都市	生産と 消費	実施 手段
	13% 1 1984	- 8 T. S.	3 LT 11.	4:2**	© "	10 3557*	16 17 18 1	6 :::	7 O .	13	14 5.5	16 ***	8 ::: 8	9 1000	n	8	₩
主要な目的に該当するゴール			0				0										0

2 指標の推移等

	_	打日付示りが正	יד עוי					,	// Ha ++ 1.⊃	1 11 -11-11	L. ~ #4##		- I= I
			Þ	羽 容		単位	基準値		後期基本語	十画期間日	Pの 美績値		目標値
			r	1 4		1111	<u> </u>	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)
	ア	環境・体制 に関する評 価①	必要な医 が整って	療サービスを受け いる	られる体制	%	(R3) 61. 3	60. 6	59. 2	59. 0			7
ングー	ンケー	R 6年度実 績値の理由	市街地	也及びその周辺地域	が比較的高い	いのに対し	ンて、 医 療	を機関が少	ない中山	間地域で	は低い傾	向にある。	>
11.11	- ト省票	回答者自身 の実践状況 ①	かかりつ	け医がいる		%	(R3) 73. 9	73. 5	74.6	76. 9			\rightarrow
1		R 6年度実 績値の理由) つけ医がいる割合 上がるにつれ高くな				だんだん	と高くな	り、40歳	代で一旦	減り、以	降は年
Ī	統計省	健康寿命(年掲:施策番号	手)(再 号14)	介護保険の要介護認 いて算定した、日常 立している期間の平	生活動作が自	年	(R2) 男81.1 女84.8	(R3) 男81.4 女85.0	男 81.5 女 85.5	(R5) 男82.1 女85.4			平均自 立期間 の延伸
打模		R 6年度実績	値の理由	健康課							•		

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R6年度に目 指す状態や指 標の目標達成 に向けて取り 組んだ内容

- ・初期救急患者への対応として、夜間については、医師会及び公的病院と連携し市内3か所に設置した急病センターで診療を行い、休日については、医師会と連携し在宅当番医が診療を行った。 ・入院治療を必要とする重症救急患者への対応として、24時間患者を受け入れることが可能な病院群輪番制病院
- に対して運営補助を行った

(改善を行っ た内容を中心 こ記載)

・中山間地域における医療提供体制を維持するため、国保直営診療所8施設(歯科2施設を含む)を運営した。

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題 SDG s の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス) ・市域における24時間365日の診療体制が確保されており、今後もこの体 制を維持する必要がある。 持続可能な医療提供体制を維持するには、医療需要や ・超高齢社会の到来により、医療需要は、2040年頃をピークに増加して 医師の状況をしっかり把握する必要がある。 いく見込みであるが、診療所医師の高齢化や勤務医の働き方改革等によ り、医療提供体制の維持が難しくなることが懸念される。 上記課題の解決に向けて必要なこと(課題解決に向けてやるべきこと)

- ・将来の医療需要や医療環境の変化を見据えながら、地域における医療・介護施設の更なる機能分担や連携を県を中心に推進し ていく。
- ・人口減少の著しい中山間地域において、国保直営診療所のあり方及び運営方法について、医療スタッフの確保や患者数の減少 などを踏まえ検討していく。

目指す状態

施策番号	17 (2-5-1)		ひと
分 野	保健·福祉分野	担当部局	地域·市民生活部
政策	人権を尊ぶ明るい社会の形成	担当課	人権·男女共同参画課
施策	人権尊重社会の実現		
施策の日指す状能	 市民一人ひとりが、生涯にわたり自分の大切さとともに他の人の大	:切さを認め、人材	雀を尊重している。

分野機断

※ SDGsとの関連		社会						環境						全体			
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェン ダー	不平等	平和	水· 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋 資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続可能 な都市	生産と 消費	実施 手段
	1 05 04984	5 ::::	3 12 14. -W*	4:2	-@ [*]	10 mar**	16 17 22	٠ •	7. O .	13 222 23	14 5.7	16	8 22222	9 (2019)		8 ::	17
主要な目的に該当するゴール	0			0	0	0	0						0		0		0

2 指標の推移等

]日7末り71正		7	出任	甘淮居	1	後期基本語	計画期間中	中の実績値	Í	目標値
		P	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	単位	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)
	環境・体制 に関する評 価①	互いの個 である	性や立場を尊重し合える地域	%	(R3) 34. 7	32. 6	34. 1	32. 7			7
アンケ	R 6年度実 績値の理由	~R6の 価を上 強い」	個性や立場を尊重し合える地域で 平均値(33.1%)と比較するとほぼ杉 回っているが、30歳以上は全て否 や「昔から住んでいる方の意見が る地域の実情を、地域の中で活動	横ばい状態で 定的評価が 通りやすい	である。年 肯定的評価 環境である	代別では、 hを上回っ ろ」など、	18歳から2 ている。否 昔と変わら	29歳までは 定的な意見 ない閉鎖的	肯定的評値 見として「	ਜ਼の方が否? まだまだ医	定的評]習が
ー ト 指	回答者自身 の実践状況 ①	人権問題 ている	について理解を深めようとし	%	(R3) 58. 3	58. 4	58. 2	56. 9			7
標	R 6 年度実 績値の理由	(57.8% 的意見 「研修 代でキ れる機	題について理解を深めようとして かと比較するとほぼ横ばい状態であ として、10代では「学校の授業で に参加している」、50代以上では ッカケは違うが動機が明確である 会がない」等が共通しており、人 ると考える。	oる。年代別 の履修」、 「テレビで 一方、否定	別では、全 働く世代に の話題に関 的意見でに	ての年代で は「職場で 関心を持ち、 は、多くの	*肯定的評(のハラスメ 、意識して 世代で「興	西が否定的 ント等には 理解しよ。 !味・関心な	評価を上回 3互い気を うとしてい びない」や	回っている。 付けている る」など、 「人権問題	肯定 」や 各年 Iに触
統計	人権教育・原会参加者の流		指導主事が講師を務める人権教育・啓 発研修会の参加者のうち、研修が「と てもよい」「よい」と回答した人の割 合	0/2	(R元) 83.3	83. 1	90.0	87. 4			92. 0
指標	R 6 年度実績	値の理由	研修会参加者 人権・男女共同 ると若干であ 参画課 うに開催でき 主事が講師と	るが上昇修 、参加者数	質向である。 女も増加し、	、これは、 、新型コロ	新型コロフナを経ては	トの5類移	行により、	研修会がり	以前のよ

目標達成に向けた取組内容と実績

R6年度に目 指す状態や指 標の目標達成 こ向けて取り 組んだ内容

(改善を行っ

た内容を中心

こ記載)

- ・地域における人権教育推進のため、各住民自治協議会、区、地域公民館等で開催する研修会及び住民集会に関し、少子高齢
- 時代に対応した所修会開催方法等の見直しや、講師派遣、情報や資料の提供等の支援を行った。 ・広く市民に周知を図るため、テレビ・ラジオ放送等メディアを活用した啓発を実施した。また、啓発標語・ポスターの募集、啓発DVDの貸出しや啓発資料の配布など人権尊重意識の普及啓発を行った。
- ・企業における人権教育推進のため、長野市企業人権教育推進協議会の事務局を務め、講演会、人権教育担当者研修会、研修 講座、企業経営者研修会を開催し、人権課題について理解を深めるとともに啓発事業や情報提供を行った
- ・「心配ごと悩みごと人権相談室」「LGBTQ(性の多様性)相談室」「インターネット上の誹謗中傷に関する相談室」を開設し、 相談者が自ら問題を解決することができるよう情報提供や助言を行った
- ・研修会等の開催にあたり、引き続きインターネットの活用を行い、参加しやすい環境づくりに努めた。

4 課題と今後の展開

4 味趣とっ後の展開	
目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題(該当ゴール及び三側面のバランス)
・時代とともに変化し多様化していく価値観や考え方、社会実態に合わせて市民 の人権意識・関心も変化し、人権問題も更に複雑化・多様化している。	人権尊重の考え方をベースとしたSDGsの目標である「誰一人取り残さない」社会の実現のため、時代とともに複雑・多様化する人権問題に適切に対応していかなければならない。

- ・地域における啓発・研修の実施方法等については、多様化する社会生活実態に合わせて変化する人権意識を踏まえ、各地域の状況を反映できる実施手法の再考や世代によりアプローチ手法を変えるなど、研修内容や講義方法を工夫しながら研修会課施方法等を見直していく。
- ・多様化する人権課題に対応するため相談室相談員の資質向上を図ると共に、庁内関係課やその他関係機関等と連携し、関連施策を推進してい

施策番号 18 (2-5-2) 野 保健•福祉分野 担当部局 地域•市民生活部 分

人権を尊ぶ明るい社会の形成 担当課 人権·男女共同参画課 政 策

施 策 男女共同参画社会の実現

施策の 男女が社会の対等な構成員として個性と能力を十分に発揮し、自らの意思により社会のあらゆる分野で活 **目指す状態** 躍する機会が確保されている。

×	SDGsとの関連				社会	社会			環境						経済			
		貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水· 衛生	エネルギー	気候 変動	海洋資源	陸上 資源	経済成長 と雇用	イノベー ション	持続 可能 な都市	生産と 消費	実施 手段
		1:15 Britis	5 :::	3 i	4:230	• •••••••••••••••••••••••••••••••••••	10 ::::::::::::::::::::::::::::::::::::	16 10:33	, in	7 ·	13 ::::	14 5.5	DEPTH 1	8 ::::::	9 221910	11		17
主要	見な目的に該当するゴール	0			0	0	0	0					_	0				0

指標の推移等

Ĺ	- 1日1示071生				N/ //	alaba Nilla Italia	;	後期基本語	十画期間口	中の実績値	i	目標値
		P	容 容		単位	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	(R8)
	環境・体制 に関する評 価①		かわらず、個性やi ことができる地域		%	(R3) 23. 5	24. 5	23.0	22. 6			7
アンクー	R6年度実績値の理由	代でピー	下の若年層は肯定的評価 -クの55.1%となり、全体で いると感じていることや、「효	ごは、0.4ポイント肯	肯定する割合	が減少した。	否定的な意	見からは、職力	易や地域社会	会で、ジェンタ	ダーバイアス /	が根強く
· 計	回答者自身 の実践状況 ①		参画や女性活躍推 めようとしている	進について	%	(R3) 51. 3	56. 3	55.8	54. 5			1
標	R 6年度実 績値の理由	合が減少	割合が、20歳~29歳代で8.4 した。否定的な意見として、「 女性の多い職場だから気に「	田舎ならではの風	習に諦めている	る」「何かしても	女性の地位は	向上しない」とい	いった意見や、			
約 言	地域の方針		住民自治協議会に 決権のある役員へ 画率		%	(R2) 17. 5	15. 8	16.6	17. 5			30.0
計指標	R6年度実績	値の理由	人権・男女共同 参画課	10地区で女性役性に役員になっ の参加に躊躇し	てほしいと望	んでいるが、	地域活動に	意欲的な女性	はいるものの			

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6年度に日 指す状態や指 標の目標達成 こ向けて取り 組んだ内容

- ・女性が地域の重要な方針決定の場に参画する意識醸成を図ることを目的として、2地区における「女性のための地域活動セ
- スにかで無い異なるカギのたい物に少回する息融職成を図ることを目的として、2地区における「女性のための地域活動セミナー」と、その活動発表も含めた「女性&男性のための地域活動セミナー」を開催した。 ・出産・育児などで離職した子育で中の女性、非正規雇用、未就業となっている女性を対象に、「女性のための起業支援事業(起業ファーストステップ講座)」を開催した。

(改善を行っ た内容を中心 こ記載)

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題 SDG s の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス) ・住民自治協議会における、議決権のある役員への女性の参画率が上がらない要因でもある、区長 会や行政連絡区などの地区活動の方針決定の場への女性の参画が少ない。 ・女性の活躍推進のため、働く女性の職場環境の改善やスキルアップの支援、育児・介護等により一 時離職した女性の復職や起業など、女性が多様な働き方を選択し、その能力が十分に発揮すること ず、ジェンダー平等社会の実現に向け取り組む必要がある。 ができるよう、様々な支援が必要である。

- ・地域の活動への積極的な女性参画を促進するため、地域の女性を対象にセミナーを開催する。
- ・出産・育児・介護等で離職した女性、非正規雇用、未就業の女性が復職や起業など、多様な働き方を選択できるよう、起業支援やリスキリングなどの支援を行
- ・働く女性の職場環境が改善されるよう、事業者や男性に対して啓発を行うほか、働く女性自身のスキルアップ支援を行う。